

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 2 月 14 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200700		
法人名	(有) 藤山商事		
事業所名	グループホーム 縮景園		
所在地	広島市中区鞆町5番17号 (電話) 082-511-1121		
自己評価作成日	令和2年1月	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3490200700-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3490200700-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 2 年 2 月 14 日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は広島市の中心部に位置しており、近くのデパートまで散歩をしながら行くことが出来ます。目の前には名勝縮景園とその隣には美術館もあります。そして春になれば入居者様を縮景園に入居者様をお連れすることも出来ます。入居者様には毎日の生活を「ゆっくり、ゆったり」をモットーに当施設でその人その人のペースで生活出来るよう支援し、環境づくりに職員一同頑張っております。母体であります、ワカサ・リハビリ病院より週2回院長と正看による往診に来ていただいております。入居者様が高齢のため日々の健康管理を病院との連携により強化し、また情報の共有を日々努めております。入居者様とご家族が毎日安心して信頼の出来る施設の体勢作りに職員全員で日々一生懸命行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム縮景園は広島市内の中心部に位置し、目の前に縮景園や美術館があり、利用者は四季折々の花を見ながら、ゆっくりと散策して楽しまれています。職員は利用者のこれまでの生活と変わらないよう、ひとり一人に寄り添い言葉、表情、行動で意向を把握し、利用者本位のきめ細かいケアを工夫し支援されている。母体であるワカサリハビリ病院の院長、看護師による週3回の往診があり健康管理がされ、24時間対応の医療を受ける事が出来、利用者、家族は安心されている。地域の高齢者が気軽に集まれるワカサカフェを月に一回開催し、利用者と一緒に参加し、憩いの場となっている。これからも地域の方と一層繋がりが持てるよう努められている。統括責任者、全職員で質の高い介護サービスを目指しているグループホームです。

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日朝の申し送り終了後その日の出勤職員と夜勤者で事業所の「理念」を大きな声でご唱和をし、夜勤者のねぎらいと日勤職員の仕事スタートにけじめをしっかりとつけることによってその日の実践につなげている。	毎朝朝礼で職員全員で理念(明日の事を思い思うよりも、今日一日を輝いて)を唱和し、理念に基づいて日々実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域との交流が難しい中で施設の道路の橋から端までをきれいに掃除することにより地域の皆様に少しでも気持ちの良い日を過ごしていただけたらとの気持ちで職員が毎日清掃を実践している。	町内会に入り地域の一員として有効的な交流をし、近隣の方と挨拶を交わし施設の周りの清掃を行っている。月一回ワカサカフェを開催し、地域の多くの方と交流している。今年6年に1回行われる地域の消防訓練に職員3人が参加し交流をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学される方の中で親の認知症で悩んでおられる方が大変多く見学が悩み相談化したりで少しでも不安が軽減していただける様お話をさせていただくことが多くなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議開催時案内状を送るようにしている。包括センター、民生委員、ご家族と皆様の協力のもとに意見、情報交換、ご家族の意向をお聞きして、毎月一回あるユニット会議で話し合いをし、職員一同サービスの向上に生かすようにしている。	家族、民生委員、地域包括支援センター職員、統括責任者、管理者、ユニットリーダーの参加で開催されている。事業所の状況、活動を報告し、出席者からの意見を聞き情報を得てサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の報告書を奇数月に送付しておりGH縮景園の状況を知ってもらうようにしている。何か分からないことがあれば、しに相談し、親切丁寧に説明を受けて理解し、実践に活かしている。	市役所へは運営推進会議の報告書を提出し、何か分からない事があれば出向いて相談し、説明を受けている。今年度は研修の情報を得て、管理者研修に3名参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束0」と職員一同心掛けている。今現在拘束するような方はいらっしゃらない。施設で一ヶ月に一回のユニット会議にて研修を取り入れ常に「身体拘束0」を頭の中に入れてケアに取り組んでいる。	身体拘束についてはユニット会議の中で行い、身体拘束はしていないが職員全員で、繰り返し身体拘束のないケアの取り組みを話し合っており、身体拘束委員会の議事録をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	当グループホームで虐待は絶対がないが統括責任者及管理者は高齢者虐待防止法等についての市の研修に参加させてもらいスタッフ同士で話し合い情報交換を行っている。身体チェックはボディチェック表で小さな傷も打撲痕も見逃さないように発見したその日に日付を記入している。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	統括責任者・管理者・ユニットリーダーは「成年後見の制度」の研修を受けて、必要性を考えて関係者と話し合いをし、より良い支援が出来るよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については納得のしていただける説明をし、又納得をしていただいた上で署名、押印をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	二ヶ月に一度の運営推進会議にて包括支援センター、民生委員、御家族、統括責任者、管理者、ユニットリーダー等の意見・要望などをお聞きし、アドバイスを受けながら運営に反映させている。	日常的に家族の面会はあるが、遠方で面会に来れない家族には、日常の様子や変わった事がある時には、それぞれ連絡を密にしている。何かあれば電話をかけ要望をお聞きしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は、統括責任者、管理者、ユニットリーダーの意見を聞き、又提案等にもしっかり耳を傾けて運営に反映させている。	ユニット会議の中で職員一人ひとりの意見、提案を聞いている。業務中に些細な事でも報告し、自己判断しないようにしている。管理者は、しっかり職員に耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は少しでも職員のストレスが溜まらないように、リフレッシュ休暇をとりやすいよう配慮している。又希望休を月二回取れるようにしており、勤務表を作るよう指示している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に一度の「ユニット会議」にて統括責任者を主に施設内研修を実施し、職員との意見交換や、入居者様の情報共有しスキルアップしている。又、入居者様の情報共有をし、入居者様のケアに役立つようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は統括責任者が同業者との交流を大切にし、その中で質の向上をしていく上において参考になることや他の事例を聞いてサービス向上に役立たせることが出来るよう管理者・職員の協力を得て支援お取り組みをしている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ほとんどの入居者様から「家に帰りたい」との訴えがあり、その人の今まで生きてこられた道のりをより理解し、その人に寄り添いながらも日々を過ごす様にし1日でも早くここが「自分の家」と安心していただける様関係作り日々勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様とコミュニケーションを取りながら日々の生活状況を報告し安心して頂き出来るだけ要望をお聞きできるようにしている。又、遠方の家族様にも連絡を取りながらご安心していただける様な関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャーに暫定プランを立ててもらいケアプランに基づいてサービス支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「ゆっくり・ゆったり」を基本に入居者様一人一人のペースに合わせた生活をしていただき一緒に暮らしを共にするほかの入居者様や職員と仲良く日々の生活が安心して過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	統括責任者・管理者・職員がご家族様と入居者様の駆け渡しとなりトラブルのないよう情報提供しながら入居者様を支えていけるよう心配りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも訪問していただけるような環境づくりをしており、手紙やはがき送付をする手伝いもして馴染みの方といつまでも縁が切れないよう支援に職員全員で努めている。	友人・家族の面会があり、何時でも気軽に訪問してもらえる雰囲気作りをしている。家族と馴染みの美容院に行かれる方もある。3月には法事に帰られる予定の方があり、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	常に職員が声かけをしたり傾聴したりする事で孤独にならないように支援に努めている。又、悩みがあれば利いて側に寄り添うよう心かけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了し退去された方でもご家族から相談があればアドバイスしたり気軽に相談にこられるようにし経過をフォローもできるだけ出来るように勤めている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人にあつた生活のあり方や希望の中で出来るだけ意向を受け入れる様に統括責任者、職員を含めて検討会を月一回ユニット会議でしている。	日々コミュニケーションを取る中で、利用者のニーズに気つくよう努め、思いや意向の把握をし、ユニット会議で全員が情報を共有し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	施設での生活が苦にならない様に施設の生活環境に早く馴染んでもらい今までの生活歴を理解しながら側に寄り添いサービス利用の軽量の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のラジオ体操・口腔体操・音楽歩行など一日の始まりに心身の状態を健康に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月一度のユニット会議で介護計画書のモニタリングを行いながらその人にしっかりとあつた介護計画書を作成している。	4ヶ月に1回のケアプランの見直しを行っている。月に1回モニタリングを行いながら利用者、家族の意見を尊重して、問題点、アイデアをケアプランに反映している。家族の面会時に、ケアプランの説明をし、同意を得ている。利用者に変化が生じた場合、現状に即した介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を読みながら日々の生活状態をしっかりと把握しながら職員間との情報交換を密にし介護計画等をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	少しずつ進みつつある認知症に不安を感じさせる事のない様職員の優しい声かけと目配り気配り心配りを忘れず毎日を元気に暮らしていただくようにしている。又、事業所全体で支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご自分の心身の力をそれぞれ発揮でき無理なく心が安らぎ少しでも楽しい生活が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体である病院の医師と正看護師の往診があり身体的な心配もなく安心していただける様入居者様の少しの体調変化でも医師に報告することにより医療と介護の連携によりしっかりと支援をしている。	かかりつけ医である、母体の院長と看護師による往診が週に3回あり、24時間医療を受けられる体制が出来ている。利用者、職員にとって、安心した医療体制が出来ている。歯科医は2週間に1回の往診で、口腔ケアの指導もされている。	

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回～週2回の母体である病院の院長と正看の往診があり安心した生活を送られている。少しでも体調が悪いときはすぐに報告しすぐ往診に来ていただき身体的不安がない様になっている。又、看護師とも情報の交換をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされたときは病院での生活に不安がない様統括責任者が一日に2回には会いに行き病院での生活に不安がない様にケアしており看護師との情報交換も心配りある関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合は終末期に向けた説明は医師より御家族様に説明がありご本人や御家族様のご要望に沿った支援が出来るような取り組みをしています。	入居時に、終末期における説明をしている。重度化された場合は、再度家族に希望を聞き、家族、医師との話し合いの基に事業所で出来る事を行い、支援している。今年は看取りはなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成し施設内研修もしている。初期待応等に役立てて実践出来るよう統括責任者、管理者が常に職員に指導しており日ごろからの実践力を身につけるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回が再訓練を行っている。入居者様の協力を得て訓練をしている。夜勤時や非常階段からの訓練も行っている。	年2回消防訓練をしている。利用者の避難場所はベランダにしており、利用者を背負って非常階段を降りる等の避難訓練をしている。業者指導で消火器使用、通報訓練等が行われている。非常食の備蓄もしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員はその人の生き様を良く理解し「親しき仲にも礼儀あり」でその人の人格を無視したりプライドを傷つけたりすることのない様配慮をしてコミュニケーションをとって対応している。	職員は一人ひとりの性格、人生論を知った上で優しく丁寧な言葉遣いに心がけ、命令的な言葉、否定的な言葉遣いをしないように心がけている。ユニット会議でプライバシーについて話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	施設内の自己決定は本人の希望で行われている。間違った決定をされそうな時は良く分かるような説明をし、自己決定をしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「ゆっくり・ゆったり」モットーに日々の生活をしていただいているのでご自身のペースでご希望に沿った支援をしている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身の気に入られている洋服をご自分で着ていただける支援をしている。しかし、夏に毛ものや春物を着ながらの方がいらっしゃられたら、その時はやさしくしっかりと説明をし季節の服装をしていただくようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を作ると手伝いはされていないがおしぼりを作ったり、テーブルをふいたり出来る範囲以内で手伝ってもらうこともある。	食事は食材業者のレトルトを温め、器に盛り付けて提供している誕生日会に利用者の好みを聞き、ホットケーキやお好み焼きを作られている。ホテルのお茶会に出かけ、お茶やお菓子で楽しみな行事になっている。医師の許可をえてショッピングモールのフードコートで食べたい食事を選択し、ステーキ等を食べられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員は日々食事摂取量と水分チェックを一人一人ケアチェック表に記入して支援している。暑い夏の日にはポカリゼリーを作り水分の確保に役立っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来るところまで口腔ケアをしていただき出来ないところはの仕上げは職員がしている。フットブラシとマウスウォッシュを使い口の中の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを職員全員で把握し声かけ誘導をしている。オムツを装着されている方にも時間の間隔を見て職員二人介助にてトイレでの排泄されるようにして自立に向けた支援を行っている。	オムツ使用の方もトイレで排泄されるよう2人で誘導し、便座に座り腹圧をかける事により、気持ちよく排泄出来る様支援している。トイレでの排便の後の便形状を見る事を習慣付け、健康チェックをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	職員は排便一覧表を作成しており一人一人の排便形状を医師が往診にこられた時に報告をし排便コントロールの指示をいただいて無理なく形状の良い便をされるように見ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週二回の入浴で洗身洗髪を無理なく出来る。退りご自分でして頂きゆっくりとリラックスして入浴していただき仕上げは職員がしている。	入浴は週に2回ゆっくり入れられ、自分でできる部分は洗われ、手の届かない部分は支援されている。最後は打撲などがなにか職員が確認している。夜、朝のリハパン交換時、蒸しタオルを使用し、気持ちよく、又ニオイがしない様に清潔にされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食を食べられると各居室に入室しお昼寝をしてもらったり夜は自室に入室をされるよう職員が声かけをし好きなテレビ番組を見られたりされリラックスをされながら眠られるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は誤薬が絶対ない様職員二人で〇月〇日〇〇さんの朝の薬です。と双方が必ず確認しており「ゴックン」確認し夕朝は夜勤職員名、昼も職員名の記入をし責任を持って服薬の管理をしている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に一度誕生日会や入居者様が好まれるホットケーキやお好み焼きを焼いたり職員と一緒に楽しみながら出来ることをリクエストして計画を立てている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族が遠方の方が多く一緒に出かけられないことが多いため外出の計画を立てホテルのお茶会やスイーツバイキングに出かけたりするので主治医との連携を取って体調管理をしっかりと行い入居者様の希望に応じられるように支援するようにしている。	気候の良い日には、時間帯をみて縮景園に散歩に出かけて、気分転換をしている。年2回ホテルのお茶会、スイーツバイキングに出かけ、楽しい時を過ごされている。年3回病院の夏祭り、敬老会、クリスマスに参加している。参加できない方の配慮もされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出されたときにご自分で財布を持ってご自分で買い物ができるように職員の見守りのもと使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書かれたら切手を職員が張付け投函して手紙のやり取りができるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様の共用空間のリビングでTVを見られたりコーヒーを飲まれたり談話をされたりと居心地の良い場所を提供するためクラシックをかけたりオルゴールをかけたりして気分を和らげる様に工夫して居心地良く過ごせるようにしている。	リビングは清潔に保たれ、温度・湿度が管理され、テレビを見たり、音楽を聴いて、ゆっくり、ゆったりと過ごせる共用スペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では仲良しの方が一緒にいらっしゃったりするがその中に職員が入って常に一人孤独にならないよう職員は気使いをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自分の日ごろから使用されておられる好きなものを持ってこれら今までの同じような環境に似た状態を作り本人の居心地良く過ごせるようにしている。	居室には家庭で使われていた馴染みの物(家族写真、人形、仏壇、ぬいぐるみ、衣装ケース、本、カレンダー)が置かれ、利用者が居心地良く過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自分の部屋が生活しやすいようにご家族と相談して工夫して居室作りをし安全で安心できる生活が送れるように工夫している。		

グループホーム縮景園

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム縮景園

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 縮景園

作成日 令和 2年 2月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	高齢の為か急に体調が悪くなられたり他の専門病院に受診されたり入院される方が多く見られた。	急変にすばやく対応できるように日ごろからの研修を活かし医療介護の連携を取りスキルアップ出来る様にする。	日頃より医療との連携を大切にしてきた結果大事に至らない事も多々あったが常に冷静に判断が出来る様になる為今年も継続し職員全員更なるスキルアップを目指していける様に取り組む。	12ヶ月
2					
3	52	ほとんど共用のリビングが好きで過ごされる事が多くTVを観たり談話をされておられます、しかし環境整備がしっかり思うようになっていないように思います。	空気の入れ替え及洗面所の整理整頓、家具の清掃など共用部分の環境整備に力を入れ皆様に過ごして頂く場所が常に清潔であるように心掛けていく。	職員全員で話し合いながらスケジュールを立て共用部分であるリビングを常に清潔で落ち着かれる空間作りに取り組んでいく。	12ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。